

02

February  
2026

[月刊] キリスト教書評誌

# 本の ひろば

HON-NO-HIROBA

ISSN 0286-7001

一般財団法人キリスト教文書センター  
1957年7月17日第三種郵便物認可  
2026年2月1日発行(毎月一回1日発行)  
第818号

出会い・本・人

私の社会福祉観を変えた一冊の思想・哲学書 横山 穰

特集シリーズこの三冊!

「わたしたちの礼拝」を知るためのこの三冊! 林 牧人

本・批評と紹介

石田 学 著

聖書通読31 村上恵理也

小泉 健 著

みんなの説教入門 野口幸生

川中 仁 編

信仰と行為 阿部仲麻呂

小高夏期自由大学事務局 編著/飯島 信、小暮修也 編

苦難の日々を心に刻み、再生へ向かって歩む 水口 洋

木下裕也 著

〈植村正久〉を読む 芦名定道

コデイ・J・サンダース、アンジェラ・ヤーバー 著/真下弥生 訳

宗教活動におけるマイクログレッシュョン 中村吉基

クリスティアーネ・ティーツ 著/橋本祐樹 訳

ダイートリツヒ・ボンヘッフアー 寺園喜基

E・ユンゲル 著/佐々木勝彦 訳

世界の神秘としての神 菊地 順

マーティン・レアード 著/柳田洋夫 訳

静寂の地へ 柳田敏洋

ポーラ・グッダー 著/中原康貴 訳

意味は待つことにある マリア・グレイス 世森田鶴

川島重成 著

見知らぬ神の跡を辿って 川田 殖

〈在米日系人史〉と  
〈戦後日本教育史〉の交差史!



吉田 亮〔編著〕

## 占領期日本の教育再建と越境キリスト教

●A5判・370頁・定価7,480円

戦時下の在米日系人の強制収容と戦後日本の教育再建はどのように交差するか。復興期における人間形成と社会の再編成に宗教が与えた影響を究明する。

同志社大学人文科学研究叢書

好評発売中!  
川中子義勝

『詩人イエス——ドイツ文学から見た聖書詩学・序説』

●A5判・240頁・定価4,950円



## ドイツ・コラールの詩人たち J.S.バッハに耳傾けつつ 川中子義勝〔著〕

ルターからバッハへ至る「ドイツ・コラール」の大きな系譜を一望した、画期的通史。ルター、宗教改革期、正統主義の時代、三十年戦争期、敬虔主義の時代——200年わたる詩と音楽と信仰の系譜がこの一冊で明らかに!

●A5判・360頁・定価4,950円

## 楓の記憶、紡ぐ言葉

来日カナダ婦人宣教師報告資料の翻訳と  
東洋英和女学院での幼児教育

芝恭子〔訳著〕 芝恭子著作集編集委員会〔編〕

保育養成教育に生涯をささげた著者による、  
次世代に残すべき貴重な研究成果の出版!



「幼児教育研究の進展を告げる一書が今、世に出ることになった。本書は宣教団体の内部資料をつぶさに考究し、幼児教育思想の進歩とそれに即応した教育の進展を明らかにすることで、日本幼児教育史を新しい視点から照射している。」  
(推薦者・塩入隆)

●A5判・330頁・定価2,970円





# 私の社会福祉観を変えた一冊の思想・哲学書

横山 穰

阿部志郎の著書『社会福祉の思想と実践』（中央法規、2011）は、私の社会福祉観を変えた思想・哲学書である。

阿部先生（以下敬称略）は、筆者の恩師である同志社大学の故嶋田啓一郎名誉教授にとつて掛け替えのない盟友であり、社会福祉界における偉人である。2026年2月1日にはめでたく百寿をお迎えになられる。阿部は、横須賀基督教社会館長として50年間地域福祉を牽引するのみならず、国内外の大学、政府審議会、学会、専門職団体において、トップとしての要職を務め、顕著な功績を挙げている。

阿部は、「愛とは、他者への働きかけを通して、自己の実存が支えられ、自己と他者とともに生きる関係を創造することである」と述べ、彼の前任者である宣教師のエバレット・トムソンの精神である「よき隣人として愛しなさい」、「隣人を放っておけない」を胸に刻み社会福祉の道を歩んできたという。そのことは、嶋田の愛唱句「信仰・愛・希望のうち最も大いなるも

のは愛である」、「もはや我生けるにあらず、キリスト我が内にありて生けるなり」に通じる。マザーテレサは「愛の反対は憎しみではなく、無関心である」と述べたが、キリスト者にとつて「隣人を愛すること」は「神を愛すること」でもある。

人権（人は誰もが生まれながらにして、その能力を最大限發揮できるように、政府はそれを支援する義務があり、その支援を要求するのが権利）を重視するヒューマン・サービス（人間福祉）は「人間が直面する諸問題に全人的に対応し、社会環境を整え新しい文化の創造を目指す」と阿部はいう。そして、キリスト教社会福祉の使命は「人間を真実に人間たらしめること、すなわち、いと小さき者の一人が尊ばれる世界を作るため、福祉実践をもつて、生きる喜びと明日への希望を隣人に伝えること」とし、阿部独自の社会福祉の思想と哲学を垣間見るのである。

（よこやま・ゆずる 北星学園大学特任教授）



## ▼シリーズ この三冊！

# 「わたしたちの礼拝」を知るための この三冊！

## 林 牧人

(はやし・まこと) 日本基督教団西新井教会牧師、附属西新井教会  
保育園園長、日本キリスト教団出版局『信徒の友』編集長

十分に伝わりませんでした。

「礼拝」について知りたい、学びたいという声は、キリスト教会の内外に少なくありません。しかし、日本における神学教育、教職者養成の現状において、「礼拝学」は二の次とされている感が否めません。ことに、北米からの宣教師に由来するプロテスタント諸教会において、この傾向は顕著です。時に「賛美歌付き講演会」などと揶揄されることさえあるシンプルな礼拝形式は、キャンペーンや信仰

いた19世紀北米プロテスタントにおいては、諸教派を縦断して共通の要素としてあったことは確かです。それが、宣教師をとおして日本に伝えられたのです。けれども北米の諸教会は、その後、20世紀初頭の「第一次リタージュカルムーヴメント」を受けて、式文改訂をとおして礼拝改革を進めることへと向かい、それは、礼拝形式のみならず、教会建築の様式に至るまで浸透していったのです。ところが、戦争の影響もあり、日本の諸教会にはその成果が

このことは、日本のプロテスタント諸教会が、宣教師の派遣元である母教会からの自給自立を早い内から目指したことも関連するでしょう。旧日本基督教会の姿勢に代表されるように、簡易信条とシンプルな礼拝形式を基本に据えるあり方は、教派を超えて日本の諸教会に浸透していき、それは、日本基督教団の戦後のあり方にも継承されています。『日本基督教団口語式文』に規定された3つの礼拝順序のうち、シンプルな「礼拝順序Ⅰ」は、各個教会による多少の改変を伴いつつも圧倒的多数の教会で受容されています。他の2種類の礼拝順序は、「リタージュカルムーヴメント」を受けた式文改訂と礼拝改革の成果を取り込んだ意欲的なものですが、現在に至るまでほとんど省みられることのないまま推移しています。形式よりも内実、式文（成文祈

禱)よりも自発的な言葉で祈る(自由祈禱)ことを重視するといった有り様が、十分に検証されることなきままに継続されているのです。そのような中で、礼拝改革や式文改訂に意欲を見せる研究者、牧会者は繰り返し現れますが、神学の本質から離れた些末な事柄に興味を抱くことに意味はあるのかという冷めた視線を向けられることがしばしばであったと言えるでしょう。今もあまり変わらないかもしれません。

今から60年ほど前、ローマ・カトリック教会では「第二ヴァティカン公会議」が開催され、典礼改革と共にエキュメニズムの分野で転機となりました。共同訳聖書は大きな成果の一つですが、プロテスタント教会側での共通聖書日課や諸教会の式文改訂に与えた影響は計り知れません。そして、世界教会協議会(WCC)における『リマ文書』とその意図を実際の合同礼拝で

具体化するための『リマ式文』の策定へとつながります。ここから「第二次リタージカルムーブメント」が花開きます。日本基督教団をはじめとする日本の諸教会でも、この成果を受け止めるべく多くの研究と発表がなされました。式文の試用版の刊行、聖書日課の提案等々です。『讚美歌21』の刊行もこの流れの中にあります。しかし、世界の諸教会が次々と式文改訂と礼拝改革の成果を实らせていくのを尻目に、日本の諸教会では従前のままの状態が継続しています。ある宣教師は「日本に來たら、神学校で歴史として学んだ150年前の礼拝の形がそのまま続いているのに驚いた」と述べています。

少なくとも、捧げている礼拝がどこに由来し、どのような経緯で今の形式になり、そこにどのような意味があるのか、課題はないのか、といった検証はなされるべきだと考えます。さらに

「祈りの形は信仰の形」と言われるように、礼拝学は決して傍系の学問ではなく、神学の本質に迫るものであるという認識を回復し、今後の式文改訂や礼拝改革を、より広く深い考察と検証をもって進める体制作りの必要を感じています。こうした課題認識を持ちつつ「わたしたちの礼拝について知る」ための本の紹介をしていきたいと願います。

まずは、キリスト教会の礼拝の諸相と変遷について概観できる入門書としておすすめののが、江藤直純・宮越俊光編『人物でたどる礼拝の歴史』(日本キリスト教団出版局、二〇〇九年)です。本書は季刊『礼拝と音楽』(日本キリスト教団出版局)に二〇〇二年より二四回にわたって連載された記事を再編集したものです。キリスト教礼拝史についての優れた通史は、今までもなかったわけではありませんが、人

物に焦点を当てて紡がれる通史というの類を見ないものです。使徒たちの時代から、東西教会分裂そして中世におけるローマ・カトリック教会への流れはもちろんのこと、宗教改革以降の諸教会の礼拝についても詳述されているのが特色です。さらには、日本のキリシタン時代への言及もあります。また、現代における礼拝学復興の祖となる人物や第二ヴァティカン公会議、さらには、テゼ、「リマ式文」も網羅しています。とかく礼拝史の叙述は「式文の変遷」を軸に叙述されることが多いのですが、実際の担い手であった人物に焦点をあてることで、その時々々の礼拝共同体の実際が立体的になります。何よりも、本書は日本人研究者、牧会者による書き下ろしであり、大変読みやすくなっています。まずはここから始めてみてはいかがでしょうか。

続いて、プロテスタント教会の礼拝

に特化した研究書である、J・F・ホワイト『**プロテスタント教会の礼拝**』（日本キリスト教団出版局、二〇〇五年）を紹介します。著者のJ・F・ホワイト（一九三二〜二〇〇四年）は、合同メソジスト教会に籍を置いた北米屈指の礼拝学者であり、礼拝学に関する著書は19冊を数えます。デューク大学にて博士号取得、パーキンス神学校（南メソジスト大学）およびノートルダム大学の礼拝学（典礼学）教授を長く務め、ドルー大学教授及びイエール大学客員教授を歴任。礼拝学研究においては避けて通ることのできない第一人者です。

英語圏プロテスタントの礼拝学における先行研究としては、ホートン・デイヴィスの『英国の礼拝と神学』が新たな地平を開拓したと言われます。しかし「聖餐式文Ⅱミサ典礼文」中心の礼拝学は、ローマ・カトリックの手

法を打破することができなかったのです。マクスウェル、トンソンらの研究も含めて、相変わらずこのパラダイムは継続していますが、アメリカ起源の多くのプロテスタント礼拝の研究にはふさわしくないことは明らかでした。

そこでホワイトは新たなパラダイムを提案します。行為と環境という2つの要素に注目しつつ、礼拝における7つのカテゴリーを提唱し、政治的メタファーによる伝統の分類を提示します。特に、自由教会の括りを分割し、プロテスタント派と呼ばれるカテゴリーを提唱したことは、パラダイム転換の大きな独自要素です。この立場から、ローマ・カトリックとプロテスタントの礼拝の関係をみると、決して交わらない並行から、近接しつつ並存する関係であることが示されていきます。一方で、プロテスタントの括りにおける分裂の方が、より深刻であることを浮かび上



### 『人物でたどる礼拝の歴史』

江藤直純、宮越俊光：編  
日本キリスト教団出版局  
2009年  
A5判  
264頁  
3,300円



### 『プロテスタント教会の礼拝——その伝統と展開』

J・F・ホワイト：著  
越川弘英：監訳  
プロテスタント礼拝史研究会：訳  
日本キリスト教団出版局  
2005年  
A5判  
458頁  
6,380円



### 『キリスト教の礼拝』

J・F・ホワイト：著  
越川弘英：訳  
日本キリスト教団出版局  
2000年  
A5判  
466頁  
7,150円

がらせます。

類書なき本書に触れることによって、ことに、フロンティア派の諸相を考察することをとおして、日本のプロテスタント諸教会の礼拝の現実がどのような事柄の変遷の結果としてあるのかを、その根源から明らかにすることができません。

最後に、礼拝を構成する諸要素について詳述した、J・F・ホワイト『キリスト教の礼拝』（日本キリスト教団出版局、二〇〇〇年）をご紹介します。前掲書と同じ著者による、礼拝そのものについての研究書になります。研究のパラダイムについては、前述のホワイトの姿勢が反映されています。礼拝

について歴史と共に神学的、牧会的に考察するこの書物をとおして、日々の礼拝がより一層意義深いものとなることとしましょう。

これらの書物をとおして、礼拝に関わるすべての者たちが深められ、諸教会の礼拝を豊かにするために用いられることを切に願っています。

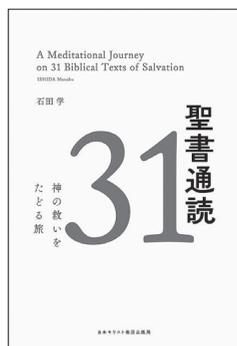
## 31日間で、聖書が伝える 壮大な救いの物語をたどる

〈評者〉村上恵理也

一編を読むごとに「ふう」と大きく息をつく。それは徒勞のため息ではなく、心身がこわばりから解放される安堵のため息に似ています。

本書は、前半に旧約14編、後半に新約17編の黙想から構成され、創世記から黙示録まで聖書66巻すべてを網羅するガイドではありません。また、各「黙想」（2ページ）の前には「聖書の言葉」（1ページ）と「小さな祈り」（1ページ）が配置されており、手元に聖書を置くことなく、聖書を読むようになっていきます。

これをもって、なぜ聖書通読をうたうのか。この点が本書独特の企てであり、明確な主張にかかわりません。ページをめくるごとに目に入るのは、「神からの救い」「神による救い」「神の救い」という言葉であり、これは、救いを「このように表現することもできる」という目覚めへの招



聖書通読31  
神の救いをたどる旅  
石田 学著



きです。本来、人には語り切ることのできない神の救いを、神学、文学、歴史、印象的な挿話など、人の言葉を尽くして多角的に浮き上がらせ、この救いにすべての被造物が招かれていく幸いを共有したい。行間から著者の静かな熱量を受けとめる読者は、一編一編、読みきりの文章を読みながら、全31編をひとつの壮大な物語のように読むことになりそうです。これこそが、本書のいざなう「聖書通読」です。聖書の言葉、黙想、そして祈り。この循環を数日も繰り返すと、神からの救いがこの私に関わる事柄として迫ってきます。より厳密には、私がすでに神の救いに生き始めている事実に対する気づきを得ます。一日一編、「既視感」ならぬ「既患感」とでも言うべき（造語をご容赦ください）、何とも不思議な感覚に包まれるのです。これが冒頭の安堵の息の正体かもしれません。

たとえば、ノアの箱舟の物語の黙想（第3日目）では、これが歴史を記述することを目的としない原初の物語と断つたうえで、「もつとも重要なことは、『人のゆえに地を呪うことはもう二度としない』、『命あるものをすべて打ち滅ぼすことはもう二度としない』という神の二つの約束」であり、聖書がこの約束を前提にアブラハムに始まる人間の歴史を語り始めていると指摘します。それゆえ、もはや自然災害にしても人災にしても、私たちが経験するあらゆる苦難は、「神の裁きではなく、まして神による罰ではない」と確信することができます」と結ばれます。

新しい年、聖書通読を試みる方はまずこの書物により聖書を通読し始めてください。聖書に貫かれる主題を捉える、と、いわゆる通読をする機運も高まるでしょう。あるいは、

## キリスト教シオニズムとは何か

大宮有博



パレスチナでどれほどの人が殺されようと、現在のイスラエル国を支持するキリスト者が多くいるのはなぜか。その思想的根拠であるキリスト教シオニズムの歴史を概観すると共にその問題点を徹底的に分析し、欺瞞を暴き、対抗策を提示する。

A5判変型並製・96頁・定価1320円

## 2025±X きのうの教会・あしたの教会

越川弘英



変わらないうにきた日本の教会は、コロナ禍を経てどのように変わったか。著者自身の経験や分析を交えながら、小さくなっても持続可能な「あしたの教会」になくしてはならないものを探る。

A5判並製・160頁・定価2640円

信仰生活を始めて間もない方にも、長らく続けている方にも、喜びの日の中にも、悲しみの日の中にも、「聖書通読」をお勧めします。これは螺旋階段らせんのような書物で、それぞれの状況で繰り返し読むことにより神からの救いの深さ、広さを味わい、知らぬ間に以前よりも近く神を思う自らがいることに気づくことでしょう。

最後に、石田先生が最愛の「ライフ・パートナーの撰子」さんに寄り添い共に旅する生活のなかで本書を編まれたと思うとき、これが机上の慰めではなく、時に試練を伴う現実のただ中で、今ここにある神の国を旅する喜びと希望の所在を指し示す書物として、わたしの心に迫ってきます。

（むらかみ・えりや）日本基督教団松戸教会牧師  
（四六判・一四四頁・定価一七六〇円・日本キリスト教団出版局）

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)

## 著者の誠実さが印象的な、 牧師も信徒も「みんな」の道案内

〈評者〉野口幸生



みんなの説教入門  
小泉 健著



本を読んでの第一印象は「誠実」です。著者自身の、誠実に主に向き合う信仰が本の全体に満ちています。

例えば「受け止めたいのは、わたしたちの存在のすべてが説教のために用いられることになるということです。わたしたちの恐れとおののきも、隠されたところでの涙も、心の深いところにある静かな喜びも、説教の奉仕において用いられます。大切なのは、説教の準備においても、説教を語る時にも、生きておられる主イエスの前に立ち、このお方に対して誠実であることです」。アーメンです。

本が、いわゆる説教作成論の前に「第一部 説教者とは」から始まるのも誠実です。誠実の英語訳の一つは faithful ですが、説教者論を書くとき、必然的に著者自身の目に見える信仰 life の姿勢が問われます。説教の教授ですから、普段の姿勢が違っていたら、よう言うわと呆れ

られ終わり。だからこう言います。「わたしの言葉と共に、わたしの人格、わたしの存在そのものが説教します。(中略) 信仰者としてのわたしのすべてがかかわることになります」「説教を聞くことは、第一には説教者と出会うことです(中略) 説教者の信仰を受け取ります(中略) どれほど説教の言葉がたたくなくても(中略) 心には、個々の言葉よりも、御言葉を重んじ、御言葉を喜び、御言葉によって生かされている説教者の信仰が残るからです」「説教者との出会いが、次に説教者を生かしている御言葉との出会いをもたらしませう」「御言葉と出会うことを通して、最終的には、生きておられる主イエスとの出会いに至ります」。

畏れを覚えずにいられない。だからでしょう。この御言葉に向かう姿勢を「説教者の霊性」と呼ぶ章で「説教者は神の心をいただくに苦しみ、祈ります。苦しみのただ中で、

御言葉を新しく受け取ります。苦しむ者への救いの言葉、悲しむ者への慰めの言葉、罪深い者への赦しの言葉を聞き取ります。そこから説教の言葉が生まれてきます」と、ルターの言う「試練と祈りに、主の心をいただいて向き合いつつ、御言葉の黙想を語る」「第2部 説教を準備し、語る」の全体を黙想論として丁寧に展開します。

第1部が実存的に具体的だとすれば、実際に黙想・釈義・原稿に取り掛かる第2部は、驚くほど実践的に具体的です。例えば「聖書はどこまでも奥深い書物であり、どれほどリベラルな問いを投げかけたところで、その力を失うことはありません」から、注解書の著者と「一緒に御言葉に聞きながら、信仰の対話をするのです」と「説明」より「対話」する姿勢を教えます。その対話が会話文体となり、

例えばペトロは主の一番弟子ですと子供説教で説明するより《だれかお使いに行ってくれるかな?》とイエスさまが見回すと、「(実際に手を高く上げながら) はいっ! はいっ! はいっ! ぼく! ぼく! ぼく! が行きます」今日も真っ先に手を上げたのはペトロさんです》と神様のドラマに引き込むほうが良いと。

連載時はCS教師向けだったため、ぜひCS教師会で、いや牧師会でも一緒に読んで欲しい本です。そして美しい門でのペトロのように、「私を見て」と黙想で受けた御言葉を手渡す生の姿を具体的に分かち合い、他の教師の手を取って、「さあ皆で」と福音を伝える美しい門と一緒に入って欲しいです。すべて主が用いて下さいますから。

(のぐち・ゆきお) 日本基督教団高知東教会牧師  
(A5判・一五二頁・定価一九八〇円・日本キリスト教団出版局)

ヨベルの新刊 / 既刊案内

**滝沢克己** 滝谷美佐保「編」

**人生の難問に答えて**

**中学生の孫への手紙**

滝沢克己さんは孫への手紙も全身全霊、唯一つのいのちそのものを語る!  
インマヌエルの原実実の神学者・哲学者滝沢克己が、中学生の孫からの素朴な問いに、真摯に答える7通の手紙を書いた時代になお語りかけてやまない。  
好評発売中 新書判・二二八頁・一三三〇円

中学生の孫への手紙  
手紙への問と答

**大井 満責任編集**

**ケズイック・コンベンション説教集 2025**

**聖なるキリスト者として生きる**

もし真夜中に友だちが助けを求めてドアをノックしてきたら…。私ならどうすべきか。どうしたか。21世紀の現代にも通じる真摯な問いかけに聖書は満ちている。御言葉の前に自らを立たせ、神の顔かんばせを仰ぎ見て生きるケズイックの民たち。2025年の記録。  
四六判・一九〇頁・一六五〇円

聖なるキリスト者として生きる  
とて生きる  
聖なるキリスト者

ヨベル YOBEL Inc. info@yobel.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷4-1-1-5F  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
出版の手引き / 呈 (税込)

## 三人の求道者の生き方の 根底に潜む求道の意義を浮彫

〈評者〉阿部仲麻呂

信仰と行為とを対立させても何も生じません。しかし、信仰は行為へと深まるときに意味を見出し、行為は信仰によってゆるぎない安定感を伴って支えられています。まさに信仰と行為との連続性と一体性とを改めて明確に示しているのが本書の長所です。

本書は時代や地域性を超えるアブラハム、ルター、聖イグナチオ・デ・ロヨラという三人の求道者の生き方の根底に潜む信仰と行為との相互補完性の豊かな実りを活写しています。これら三者の旅は魅力的でありつつも苦難の連続でもありました。私たちもまた旅人として人生の巡礼の歩みをつづけていますが、本書をとおして求道の意義を改めて学ぶことができるでしょう。イエズス会所属の神学者である川中仁師の卓抜な洞察力によって有意義な企画が成立していると言えます。山口希生氏はアブラハムの旅を振り



信仰と行為  
川中 仁編



返り、江口再起師はルターの心の遍歴をたどり、川中仁師は聖イグナチオの巡礼を再評価します。

ところで、評者にとって一番印象深かった箇所を川中師の論述のなかから引用しておきましょう。「イグナチオ的な識別において最も根本的な識別基準となるのは、霊の動きの識別とともに、十字架につけられたキリストである。自叙伝三一番には、十字架の前で祈っていた際のイグナチオの体験が記されているが、十字架の前で祈ることで、美しく見えた幻視の正体が明らかになった体験が記されている。ここに、識別基準としての十字架につけられたキリストということをみることができる」(149頁)。聖イグナチオによる「十字架理解」の意義は、実に同時代のルターによる「十字架の神学」とも重なるとともに、時代をさかのほればアブラハムにおける「独り息子イサクの供犠」

(アケダー) の際の苦難の選択とも連続してきます。人が真に生きるには十字架的な苦難が必要不可欠なのです。こうして本書の随所から信仰者としての歩みの厳しさの重要性が如実に伝わります。

なお江口再起師は「恵み↓信仰↓行為(倫理)」の重要性を強調しますが、確かに万事が神からの働きかけではありません、人間の応答姿勢としての信仰が深まりつつ愛の実践的な行為へと具体化することで実りをもたらします。神の恵みの働きは具現化する実効支配(効果をもたらす実力を伴った支えと配慮)なのであり、人間は神の慈愛深い支えと配慮によってこそ全身全霊の信頼(信仰)を洗練させて、他者への奉仕(神の慈愛の社会的具現化)へと踏み出すこととなります。これは、まさに創世記やヨハネ福音書にお

ける「ダーバール」(神による愛の呼びかけとすること)が万物の創造のわざとして実現する)の出来事とも結びつきます。本書は「言行一致」(ダーバール)の極意を呼び覚ます道案内の良質な地図です。

(あべ・なかまる) 日本カトリック神学院教授  
(四六判・一七六頁・定価三二〇〇円・ヨベル)

**ヨベルの新刊案内**

**マイスター・エックハルト** 立教大学教授 **阿部善彦** (訳)

**教導講話** 若き修道者のための言葉

「アスター・エックハルト 教導講話」  
若き修道者のための言葉  
阿部善彦

**反響**

中世の神学者であり、霊性の巨匠が語るエックハルト版「君たちはどう生きるか」。本書は、エアフルトの修道院の院長であり、テューリンゲン地区における管区長代理である、説教者兄弟会のエックハルトが、若いドミニコ会士たちと行った諸々の講話である。新書判上製・二八〇頁・一九八〇円

**濱和弘** (著) 小金井福音キリスト教会 相模原キリスト教会 牧師

**傘の神学Ⅱ** 隠れた神からの語りかけ

**特殊啓示論** 第二弾!

「汝、ゴジラが上映されたならば公開初日の初回上映を見るべし!」は、濱家十戒の第一戒。リテラリズムでとらえれば、ゴジラを見ない家人は処罰されるが物語として読めばゴジラ愛の言葉に「啓示された神の言葉である聖書」を、どのように解し、現代に読んでいけば良いのか。前著「普通啓示論」に続く第二弾! 四六判・三〇八頁・二二〇〇円

**ヨベル** YOBEL Inc. info@yobel.co.jp  
〒113-0033 東京都文京区本郷 4-1-1-5F  
TEL03(3818)4851 FAX03(3818)4858  
出版の手引き / 呈 (税込)

## 対話の中に未来を拓く 小高からの発信

〔評者〕水口 洋



苦難の日々を心に刻み、

再生へ向かって歩む

あした  
おだか  
明日は必ず来る 原発被災地  
小高

小高夏期自由大学事務局編著

飯島 信、小暮修也編



本書は前年に引き続き行われた第二回小高夏期自由大学の全記録の報告書である。東日本大震災時の原発被災後、五年に及ぶ全住民避難の後、再生と復興に携わってきた福島県南相馬市小高区の地域住民の実践の思いが誌上に収録されている。昨年刊行された『心折れる日を越え、明日を呼び寄せる』（ヨベル新書）に続く、三日間の夏期自由大学での熱い議論が、そのまま文字化されている。

第一部・パネルディスカッションⅠ「小高を語る——まちづくりの今」では、小高で暮らす四人のパネラーが各自の視点からまちづくりの現状を語る。現場に根差した発題は、直面する課題と考えるべき視点が的確に表現され、説得力のある提言となっている。

第二部・パネルディスカッションⅡ「原発被災地で、原発とこれからのエネルギーについて考える」では、地域住

民の司会者の問いかけに復興に関わってきた三人の専門家のパネラーが発題を行い、それを受けて高橋哲哉氏の応答があり、パネラーとの対話が展開される。震災・原発被災後の小高の再生のあり方について、今も地元住民との話し合いの中で進めている現状を多面的に明らかにしている。

第三部・トークセッション「小高の起業家たちの小高への思い」では、震災後小高に定住した四人の若い起業家たちが、それぞれの想いと地域の可能性について生き生きと語っている。描く未来像に希望を見出す内容になっている。

第四部・座談会「小高で脱原発を語る」は飯島信氏・二瓶由美子氏・高橋哲哉氏の鼎談が収録されているが、二重被災地である福島の実実をどのように受け止め、何を発信できるかについて語り合っている。

一読して感じたのは第一に生きた言葉が溢れていること

だ。読者を違和感なく自由大学の会場に引き寄せてくれる。発題者をはじめ語る全ての人が、地に足のついた自分の言葉で体験的な気づきを語る。その多義性や広がり、小高への関心を深めていく。一方的な言説が飛び交うのではなく、地域に生活基盤を置き、そこで捉えた問題を語ることで、読者を一緒に考える共通認識へと誘っていく。

第二にこの地域の特殊性でもあるが、全住民避難という喪失体験を共有する人たちの郷土愛が随所で語られていることだ。それ故再生への道筋の中に、過去の記憶や地域文化を大事に考える意識が共通基盤になっている。歴史との対話を含め長い時間感覚で復興を考え、話し合いの中で住民のためのまちづくりを目指そうとしている姿が顕著に示されている。それは国が主導する開発や復興のプログラム

とは一線を画し、原発事故の教訓をどう総括できるか苦悩しつつ、再生計画を進めている点にリアリティを感じた。

第三に本書のタイトルのように、苦難の中にありながらも前向きに歩み始めている住民のパワーが伝わってきた。人は人との関係性の中で人間になっていくが、まさに人々が相互依存の関係結びながら、対話の中で未来を切り拓こうとしている姿に人間性の本質を見る思いがした。人は他者との信頼関係を持てる時に未来を語れるのだろう。本来の人間のあり方を小高の人々に見る思いがする元氣ももらえる報告だった。参加者の熱量を見える形で伝えようとした編著者の努力にも敬意を表したい。

(みずぐち・ひろし)きこえの学校ライシャワー学園理事長

(新書判・三三六頁・定価一六五〇円〃ヨベル)



## ケニアの障がいのある子どもたちが奏でるすてきないのちの話

講演・奨励・エッセイ

公文和子\*著  
KUMON Kazuko



NHK プロフェッショナル  
仕事の流儀  
小児科医 公文和子  
出演 [2025/03/20] で話題

東アフリカ・ケニアで障がい児とその家族を支援するために療育施設「シロアムの園」を開設

A5判・並製  
定価 1,100 [本体 1,000 + 税] 円  
ISBN 9784863251724



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢3丁目4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

## 没後一〇〇年、 今、植村正久に学ぶ意義深き

〈評者〉 芦名定道

〈植村正久を読む

木下裕也

〈植村正久〉を読む

木下裕也著



植村正久（一八五八～一九二五年）は近代日本のプロテスタント・キリスト教を代表する牧会者・思想家であり、二〇二五年で没後一〇〇年を迎えた。現代日本のキリスト教は植村ら明治の先達の宣教活動を土台としており、それは私たちが受け継いだ貴重な信仰の遺産である。現在のキリスト教では、混迷を深める日本社会全体と同様に、コロナ禍前から静かに進行していた問題が一挙に吹き出した。この現状を理解する上でも植村は繰り返し学ぶべき参照点であり、植村らの思想と実践はキリスト教思想研究の重要なテーマである。書評者の関心はここにある。以下紹介するのは、このために相応しい植村正久の研究書であり、著者は、先に『植村正久の神学理解——『真理一斑』から「系統神学」へ』（二麦出版社、二〇二三年）を出版しており、本書の論述は明解で説得的である。本書では、宗教論（第

一章）から、神論（第二章）、人間論（第三章）、キリスト論（第四章）、贖罪論（第五章）まで、植村神学の全貌が示されている。植村に初めてふれる読者も、本書から植村神学の核心を学ぶことができるだろう。しかし、本書はいわゆる単なる入門書ではない。本書では、植村に関する研究書（二次的文献・関連研究）が広く参照され、植村の生きた時代の思想的状況にも留意して論が進められる。しかも、植村の議論をまとめるだけでなく、批判的な分析が行われる——各章は「検討」の節で締めくくられ、最終章では「問いかけ」がなされる——。

本書の内容をその宗教論から紹介してみたい。植村の神学思想はキリスト教弁証論の伝統に位置づけられる。植村の『真理一斑』は「日本神学界におけるキリスト教弁証論の先駆となった著作」であり、日本は「明治啓蒙主義運動

の隆盛期」にあった。キリスト教は「西洋文明との密接な関係」において受容され、植村は「宗教一般の問題から入り、しかるのちにキリスト教固有の論点」に進む仕方であり、証の作業を行った。つまり、人間は本来宗教的存在であり、「すべての人の心に永遠者を求める思いが賦与されている」ことが、植村の議論の前提であり、出発点である。偶像崇拜をも含め、「天下の宗教はすべて天啓に起因」し漸進的に進歩する。キリスト教はこの進歩の過程の完成である（文明の宗教）。したがって、正しく理解された進化論は「キリスト教有神論と抵触」しないし「聖書の語るところと必ずしも矛盾」しない。「植村の神学にはキリストの神性と贖罪の業とを聖書に立ちつつ弁証していく手続さの一方で、道徳的・理想主義的・進歩的傾向が顕著に見受けら

れ」、「当時の日本の教会の神学的傾向」に関連する（一九六頁）。これはきわめて優れた神学的思索であるが、著者は、次のような「ひとつの問いかけ」を行っている。例えば、植村は永遠（神）と有限（人間）をつなぐ「橋梁」としてキリストを捉えるが、「それは聖書啓示そのものに即した理解であるのかをやはり問わねばならない」。この問いを検討することが、現代の私たちの課題なのである。本書を通して、読者はキリスト教神学を近代日本の歴史に即して理解することができる。ここから、現代において日本のキリスト教が直面する問題を深く理解することは素晴らしい読書体験となるだろう。著者の研究のいっそうの進展に期待したい。

（四六判・二二四頁・定価三〇八〇円・一麦出版社）

（あしな・さだみち 京都大学名誉教授）

## 〈植村正久〉を読む

木下裕也\*著  
KINOSHITA Hiroya



### 植村正久没後一〇〇年

植村における「宗教」と「キリスト教」の関係とは、その福音主義の内実とは、第一次資料に広く当たりな植村の神学を客観的に乗り越え、その限界を乗り越え、今日、宣教する教会にたいして、

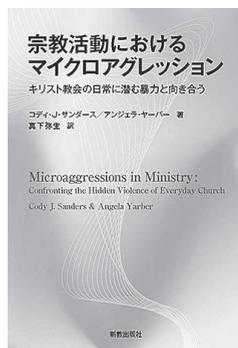
A5判・並製本  
定価 3,080 [本体 2,800 + 税] 円  
ISBN 978-4-86325-169-4



株式会社 一麦出版社  
札幌市南区北ノ沢 3 丁目 4-10  
TEL (011) 578-5888  
<http://www.ichibaku.co.jp>  
携帯 [mobile.ichibaku.co.jp](http://mobile.ichibaku.co.jp)

## まず自分たちへの問いを促す

〈評者〉  
中村吉基



### 宗教活動における マイクロアグレッション

キリスト教会の日常に潜む暴力  
と向き合う

コディ・J・サンダース、  
アンジェラ・ヤーバー著  
真下弥生訳



愛用している聖書註解書の一冊を読んでいた時のこと。同性愛者に対しての非難とも取れるような記述があった。当該箇所に対してそのような解釈は初耳だったので、しばらく呆然としたが、決して後味の良いものではなかった。執筆者にとっては「些細」な事柄だったかもしれない。他の人には何も感じない文章かもしれない。しかし同性愛者当事者の評者にとっては看過ならない記述だったのだ。

本書は教会や宗教活動（牧会）の現場において「マイクロアグレッション」（悪意のない言動により相手を傷つけてしまうこと。ただし意図して傷つける攻撃もありうる）がいかに日常的に起きていて、特に人種・性別・性別規範・性的指向に関しての少数者または周縁化された人々が受ける心的・霊的なダメージを明らかにしている。

「教会は誰に対しても開かれた場」であるといずれの教

会も掲げているだろう。本書の著者は、教会を「歓迎・肯定」の場と自認することが多いものの、実際には無意識的・構造的に排除・傷つけることを多くの事例を通して指摘している。これは単なる意識付けではなく、教会の現場においての具体的実践（説教・教育・礼拝・霊性・音楽・空間・祈り・牧会ケアとカウンセリングなど）においてマイクロアグレッションを見つけ、評価し、対処するための言語・理論・ツールを提供することを目的としている。

「結婚はまだ？」「子どもはまだ作らないの？」「うちの教会にはLGBTQ+の人なんていないよね？」「外国人なのに日本のことよく知っているね」「親が他界しているんだ。かわいそう」「ふつうだったなら異性を好きにならない？」「この間洗礼を受けたばかりなのによく知っているね」などの言葉は、「気にしすぎる人たち」の問題だろう

か。「相手も悪気があって言っているわけではない」と言って、それでスルーしてよい問題だろうか。人を属性で見ずにその人をその人として受容できないのだろうか。

本書の中で主な論点・提案をいくつか挙げてみると、多くの場合、マイクロアグレッションは「悪意」がないまま起こるため、発言者・実践者は「そんなつもりじゃなかった」と言いがちだ(第1章)。しかし著者らはその影響(被害を受けた側の実感)に目を向けるべきだと提言する。また、自己特権の自覚・特定の人(白人・男性・シスジェンダー・異性愛者・健常者など)が「当たり前」のポジションを占めていると、その無自覚がマイクロアグレッションを生む温床になると指摘する。そして、「私たちは包摂的だ」「誰でも歓迎する」と言うだけでは不十分で、

それが実際にどう「歓迎」・「肯定」されているかを質的・構造的に見直すべきだという提案がされている(第2章)。

しかし実際には言語・文化・背景・身体的状況が「標準」とされていることを振り返る機会が必要であることを教える。例として「しょうがいを抱えている方を歓迎」と言いつつ、物理的に教会堂に備えられているものが不十分だったり、説教で使われるイメージや賛美歌・語りが偏っているということがある。これまで当たり前と思っていたものが、誰かにとつては居場所を奪うものであったかどうか、どの声が聞こえていないのかを意識的に問いかけることが重要だと言う。そのことをまず自分たちから問うべく、本書はその一助を与えてくれる。

(なかむら・よしき) 日本基督教団代々木上原教会牧師  
(四六判・二九二頁・定価二九七〇円・新教出版社)

# 神学ダイジェスト139号

急速な変化を遂げる現代社会。その中にある  
って、多様な価値観に直面するキリスト者。  
本誌は海外の神学動向を紹介しながら、現  
代人のかかえる信仰への真摯な問いに光を  
あてる。

2025年12月発行  
A5版120頁  
定価638円(税込)

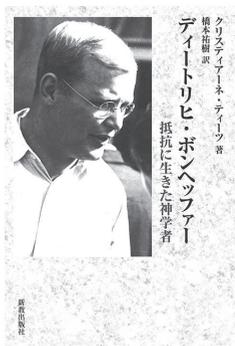
## 特集 人間の安全保障とカトリック教会

「核兵器の保有そのものが倫理に反する」 S・アガスティン  
倫理的・政治的に有用な「人間の安全保障」のために E・ギレン  
安全の必要と限界―神は我が砦― R・A・クイン  
安全の必要性を神学する K・ウェンツェル  
「正しい戦争」「正しい平和」 L・S・ケイヒル  
ニケア公会議「七〇〇周年記念文書について」 A・B・ド・テーム  
文明と一神教 T・レーマー  
パウロ書簡の教会論についての研究 R・J・クリフォード

上智大学神学会  
神学ダイジェスト編集委員会  
東京都練馬区上石神井4-32-11  
〒177-0044 Tel&Fax (03) 3594-4349  
E-mail shing-dt@netjoy.ne.jp

## 生涯と思想を立体的につとめる

〈評者〉 寺園喜基



ダイトリツヒ・

ボンヘッファー

抵抗に生きた神学者

クリスティアナー・ティーツ著

橋本祐樹訳



「ボンヘッファーの生涯と思想は密接に結びついている」。これは著者ティーツの言葉である。彼女はさらに述べる、「ボンヘッファーという人物に取り組む者は彼の神学との対決を避けることはできず、彼の神学を理解しようとする者は彼の伝記を知っておかねばならない」と。このような観点からボンヘッファーの一生が幼年期から教会闘争、投獄、獄死に至るまでの確に立体的に伝えられる。この試みは成功し、橋本祐樹氏の優れた翻訳によって、ボンヘッファーの全体像が読む者に活き活きと伝わってくる。

評伝が立体的であることを示す具体的な例を一点ほど著書に従って挙げよう。『服従』は一面においてはキリスト教の霊性を説いている。しかし著者は、明確な政治的示唆があることを指摘する。すなわち、教会闘争の中で「イエス・キリストに従うことが何を意味するか」をボンヘッ

ファーが示したものだと言う。例えば、イエスの招きに対する「単純な従順」という概念は、当時要求されていたヒトラーに対する「妄信的な従順」に対抗してボンヘッファーが提出したものである。そして、「高価な恵み」はイエス・キリストに従うことを求めるが故に高価なのである。それは命をかける値打ちがあるほどに高価なのだ。他方、「安価な恵み」は「投げ売りされた赦し」であり、マルティン・ルターの「恵みによってのみ」を誤解して信仰と従順とを切り離すものである。これに対してボンヘッファーは「ただ信じる者だけが従順であり、従順な者だけが信じる」と主張する。そしてボンヘッファー自身は生涯この言葉を生きた。

著者がこの評伝を執筆するに際しての基本的なスタンスは、終章で述べられている（わたしは読者に先ずここから

## 黙想シリーズ

聖書 聖書協会共同訳

日々の黙想

# 今ここに 気付く

150の祈りと瞑想

各黙想に、  
聖書の言葉と  
瞑想の実践法を掲載  
対象中学生から

神と共に自分自身でいるために  
クリスチャンのための  
マインドフルネス実践入門



著者



アイリーン・クレイゲル 著  
(心理学者)

合成皮革装・スリーブ入

天地175×左右110mm 360頁

税込価格 2,640円

ISBN978-4-8202-9294-4



JBS 日本聖書協会

■お求めは全国のキリスト教専門書店  
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1  
<https://www.bible.or.jp>

NEW

読むことをお勧めしたい)。二つある項目の第一項「一九四五年以降のボンヘッファー受容」においてはボンヘッファー受容の歴史と広がりが簡潔にまとめられている。そして、「荒野で呼ばれる孤独な義人というイメージ」や、またボンヘッファーとその作品に付随する「攻撃不可能な後光」は取り除かれるべきだと著者は述べる。また第二項「今日のデイトリツヒ・ボンヘッファー」においては、ボンヘッファーのテキストの多くは七〇年から八〇年前前に記されたものだから、今日に直接的に適用したり共有したりすることのできない見解もあると指摘する。しかしそれでもなお「ボンヘッファーの思想の今日性」を三点ほど著者は挙げる。第一は、「そもそも今日の僕たちにとってキリスト教とは何であるか、またキリストとは何者である

か」という問い、すなわち「信仰と神学と生活の関係」を根底から検討する姿勢である。第二は、キリスト者の生活にとって、キリスト者の交わりすなわち教会が不可欠だ、という立場である。「個々のキリスト者は他のキリスト者を必要としている」。第三は、教会は国家に対して法と秩序(と平和)を維持するという課題を想起させねばならない、という主張である。

訳者は従来「抵抗と信従」と訳されてきた「信従」(Ergebung)を「忍従」に替えた。これには賛成だ。信念・信仰に依る信従と異なり、忍従は苦しい状況を耐え忍び従うことだが、これはベートゲがこの語を選んだ理由(一六八〜九頁)に対応しているからである。

(てらぞの・よしき)九州大学名誉教授、西南学院名誉顧問  
(四六判・二三〇頁・定価二六四〇円・新教出版社)

# 無神論的風潮が漂う現代において

## 改めて神について語る

〈評者〉 菊地 順



### 世界の神祕としての神

有神論と無神論の論争における、  
十字架にかけられたお方の神学  
の基礎付けのために

E・ユンゲル著

佐々木勝彦訳



この度、佐々木勝彦氏の訳によってエーバハルト・ユンゲルの名著『世界の神祕としての神』が出版された。これは、昨年出版された同氏の訳による『義認の福音——エキメニズムを旨指す神学的研究』（教文館）に続くもので、ユンゲル神学の全体像を開示する重要な著書である。本書は、無神論的風潮が漂う現代において、改めて神について語ろうとした力作である。

その内容は、その題名が示すように世界の神祕としての神を論じたものであるが、その神祕としての神とは、副題にあるように、十字架につけられたお方、イエス・キリストに顕現した三位一体の神であり、その神とは、何よりも「愛」なる神なのである。したがって、本書の内容的中心は、この愛なる神にあると言えるが、しかし、本書は、以下に示す五部構造からも明らかのように、神の認識・表現

の問題についての議論が重要な位置を持っている。すなわち、(A) 序論、(B) 「近代の神思想のアポリアの表現としての神の死についての発言」、(C) 「神の思考可能性について」、(D) 「神の表現可能性について」、(E) 「神の人間性について」の五部である。というのも、ユンゲルは、無神論的な時代において神について語ろうとする場合、それは、そこに生じるアポリアをめぐる、「有神論と無神論との論争の中で」(二九頁) 論及されるべきと考えるからである。

まず、本書でユンゲルが取る方法は、一言で言えば、「内側から外側へ」、「キリスト教の特殊な信仰経験から普遍妥当性を要求する神概念へ」、つまり「神の自己伝達の神経験に通じる出来事に基づいて、神と人間を考え、キリスト教の真理の普遍妥当性をその内側からのみ、真理とし

日本における聖書普及  
事業150年記念出版

# 旧約聖書 詩篇

## 四訳対照

文語訳 口語訳  
新共同訳  
聖書協会共同訳

歴代の聖書を、  
詩篇で読み比べ、  
味わってみませんか。



ハードカバー・ケース入

天地210×左右210mm  
文字の大きさ約8ポイント  
厚さ29mm 422頁

定価 **3,960円**

(本体 3,600円 + 税 10%)

ISBN978-4-8202-4276-5



JBS 日本聖書協会

■お求めは全国のキリスト教専門書店  
〒104-0061 東京都中央区銀座4-5-1  
<https://www.bible.or.jp>



て証明する道」である(四頁)。というのも、神の理解は、人間の意識ではなく、神の自由な出来事に基づくからなのである。

すなわち、ユンゲルは、現代の無神論的思考の背景に見られる近代以降の形而上学的な神理解を、キリスト教にとって非本来的な理解として退け、何よりも神を「人間イエスにおいてご自身を伝達するお方」(四二頁)として捉え、したがって十字架につられた「イエスにおいて啓示された人間性からこの神性を理解しなければならない」(四三頁)とする。というのも、世界の神秘としての神は、何よりも「到来する」神であり、「神の存在は到来のうちにある」(五四二頁)からなのである。そして、その到来自体が「愛」の出来事なのである。なぜなら、「神は神」「イ

エス」へ到来する」のであり、それは、「父なる神が子を愛することにより、この神的自己愛の出来事において、神はすでに無私的に神の被造物を目標しておられる」(五四九頁)からなのである。そのため、「『神は愛である』という句の完全な理解は——神がその主体存在を三一論的に遂行する神の子の存在の歴史から初めて可能になる」(四五二頁)とも語るのである。

無神論的風潮が漂う現代において、本書は信仰者にとつての慰めの書とも言えよう。佐々木氏は、「訳者あとがき」の最後で、ユンゲルの説教集から、ユンゲルが語っている愛についての言葉を複数紹介しているが、それは本訳書を結ぶ上で大変ふさわしいことと思う。

(A5判・七三六頁・定価一四〇八〇円・教文館  
(きくち・じゅん 学校法人聖学院院長)

## 観想の祈りへの良質で 実践的な招き

〈評者〉 柳田敏洋



## 静寂の地へ

キリスト教的観想の実践ガイド

マーティン・レアード著

柳田洋夫訳



この本はキリスト教の観想の実践へのとても深みのあるガイドブックです。

著者のマーティン・レアードは、アウグスチノ会に所属する司祭であり、初期キリスト教研究を専門とする神学者で米国のピラノバ大学で教えながら、観想指導者として活躍しています。

現在、世界ではマインドフルネス瞑想が広く知られるようになっていますが、著者はあくまでもキリスト教霊性の伝統の中で観想の祈りをガイドします。具体的な方法を紹介し、様々な問題への対処方法も示してくれます。私はキリスト教的ヴィパッサナー瞑想を専門的に指導していますが、レアードの観想への道は私自身の瞑想体験ととても重なることを読んでいて感じました。

「私たちは観想する者として造られています」というの

が著者の根本的な立場です。観想とは「心の静寂のうちに神と交わること」であり「神から私たちに与えられた能力」なのです。その能力で目指すのは内的「静寂」です。

神は私たちのふるさとであり、そこにある「内なる聖性」は獲得するものではなく、「発見」するものです。この発見の道が観想であり、心に「深く根付いた抵抗を放棄する」ことが鍵となります。この道を著者はキリスト教霊性の先達、砂漠の神父やアウグスティヌス、中世イギリスの『不可知の雲』、マイスター・エックハルト、十字架のヨハネやアピラのテレサからの引用を交えて説明します。静寂へ至る方法が〈気づき〉です。レアードは、私たちが自身が〈気づき〉という山であり、思考や感情は山のまわりに生じる天気のようなものだとすばり本質を述べます。実践的な方法として姿勢と呼吸、また祈りの言葉の大切さ

が説明され、特に瞑想中に生じる雑念への対処に、呼吸に集中し、「短いフレーズ」の祈りの言葉、「父」、「神」、「アッバ」などを唱える方法が紹介されます。

本書の中心は第四章です。「静寂の地」へと向かう観想の旅を三つの入り口で説明しますが、それぞれは関門のようなもので、〈今という瞬間〉に心を向ける「愛を込めた注意」が常に必要です。

第一の入り口は、観想を妨げる厄介な思考に対し「祈りの言葉」を用いることです。思考に気づいて祈りの言葉に戻る「内なる監視」により心を静めていきます。第二の入り口は祈りの言葉と〈気づき〉が一つになることです。それは思考にしがみつかず、受け入れることと手放すことが一つとなる境地です。つまり、静寂と共にある祈りの言葉

## 聖書通読31

神の救いをたどる旅

石田学



旧約聖書の初めから新約聖書の終わりまで、聖書全体を31日で概観する画期的な1冊。御言葉、ショートメッセージ、祈りで1日分。毎日読んで、聖書全体から福音を味わおう。贈り物にも最適。四六判並製・144頁・定価1760円

となります。第三の入り口は〈ただあること〉で静寂にと

どまることです。ここでは思考にとらわれず、祈りの言葉も手放し、注意力を「気づいていること自体に移行」します。ここを抜けたところが「輝ける広漠さ」と表現される根源的静寂の場で、「自己ならざる自己」に開かれ「心の静寂のうちに神と交わる」観想の世界です。

著者は、観想を阻む雑念、怖れや痛み、渴望や誘惑も取りあげ、いずれも自分自身が〈気づき〉であると気づくことが助けとなることを示します。

本書は瞑想や観想の経験なしには理解の難しいところもありますが、始めた人や経験者向けには素晴らしいガイドブックであり、訳者による丁寧な注釈も助けとなります。

(やなぎだ・としひろ) イエズス会司祭・イエズス会霊性センター「せせらぎ」前所長 (四六判・二三八頁・定価三九〇円・教文館)

## みんなの説教入門

小泉健



聖書の読み方から、説教原稿の書き方、語り方まで、説教準備の全プロセスを丁寧に解説。牧師も信徒も、「みんな」のための説教ガイド。「説教者の霊性」を説き明かす点にも注目！ A5判並製・152頁・定価1980円

日本キリスト教団出版局

〒169-0051 東京都新宿区西早稲田2-3-18  
☎03-3204-0422 ☎03-3204-0457  
E-mail eigyou@bp.uccj.or.jp (価格10%税込)

<https://bp-uccj.jp>

## アドベントの恵みの掬え直し

〔評者〕マリア・グレイス笹森田鶴



意味は待つことにある

アドベントの恵み

ポーラ・グッダー著

中原康貴訳



この本は急いで読めない——いや、急いで読んではならない書物です。なぜならば本書に収められている内容自体が、「待つ」ことの考察であり、問いかけだからです。決して難解ではない文章でありながら、読者はまるでアドベントクランツのろうそくを一週間ごと一本ずつ灯していくように、少しずつ読み進めざるを得ません。むしろそうして読むことで、項目ごとの聖書の物語を改めて噛み締めることに心が向けられていきます。やがて本書は、読者を時空を超えた信仰の旅へと導きます。読み終わることすらも「待つ」ことが求められ、「待つ」時間が価値となります。この霊的な旅の恵みの故に、読者は容易に現実へ戻りたくなくなり、この世界に没頭したいと願わされるでしょう。

しかし本書は、推理小説のように答えに辿り着く旅でも、空想の世界に終始するものでもありません。過去と終末の

狭間にある今に生きるわたしたちに、神がなぜ「待つ」とを求めるのかを立ち止まって深く考え続ける行動へと招くのです。本書は、教会にとって重要なアドベントを、期節の枠を越えて生き方へと高め、「待つこと」の喜びと意味を思い巡らすにふさわしい一冊です。

「訳者あとがき」にあるように、ポーラ・グッダーは、イギリスの新約聖書学者であり人気作家でもあります。来年3月に第106代カンタベリー大主教に就任するサラ・ムラーリ主教と同じロンドン教区のセントポール大聖堂参事会において信徒として初めてチャンセラ―(教育担当参事)に就任し、現在もその務めを担っています。またロンドン大学などで客員教授を務める他、神学者・説教者として注目されている人物です。訳者・中原康貴司祭によって、日本でグッダーの著作が紹介されることは大いなる恵みで

ありましよう。

本書は、聖書の物語と聖書の歴史観を柱としています。序章で待つことをめぐって考察した後、各章では、アドベントクランツの順番に沿って、信仰の祖アブラハムとサラの物語での「待つことへの招き」、預言者たちの働きにみる「主の日を待つ」こと、洗礼者ヨハネを通して示される「時の狭間で待つ」姿勢、そしてマリアの「待ち続けた生涯」が取り上げられます。著者は最新の聖書学に基づくダイナミックな物語の真髓を語りつつ、自分の人生の場面に――聖書朗読、妊娠・出産、子育て、家族観――など結びつけて展開していきます。そこに浮かび上がるのは、聖書の登場人物一人ひとりの生涯がどれほど予期せぬ冒険であり、当時の社会や常識にとって破壊的でありながら創造

的で新しく、待ち続けることが求められ、揺るぎない神の愛に支えられていたかという事実です。

本書は、過去の出来事を待ちつつ、将来に到来する栄光を待ち望む信仰へと、時間を溶かしながらわたしたちを招き入れます。そしてその未来を、今ここに少しでも実現するよう祈り務める生き方へと促します。アドベントを通して私たちが生き方を変えられていくための道標がここに示されています。

近刊として本書にも紹介されているポーラ・グッダー著『私を遣わしてください――レントのころ』(中原康貴訳、ヨベル)の出版も、喜びのうちに「待ち」望みます。

(ささもり・たづ) 日本聖公会北海道教区主教  
(四六判・一六八頁・定価一八七〇円・ヨベル)

## 挑戦の記録

# 志をつなぐ

## ちいろばのバトン30年

最後まで自分らしく暮らせる

地域社会を目指して

近江ちいろば会◎編



基本理念に掲げた「人にしてもらいたいと思うことを、人にもしなさい」を脈々と受け継ぎ、多くの事業を通して尊厳ある生き方を支えるまちづくりを模索してきた近江ちいろば会の歩みを、関係者の証言で振り返る。

B5判・並製・100頁、定価1,430円(税込)

**キリスト新聞社** since 1946

〒112-0014 東京都文京区関口1-44-4 7F  
03-5579-2432 support@kirishin.com

## 人間と人間を超えるもの

〔評者〕 川田 殖

今から七十年前、神田盾夫先生は草創期の国際基督教大  
学で、西洋精神の源流にある聖書と西洋古典に基づいて、  
人間と人間を超えるものとの出会いを講じ、心ある学生た  
ちを魅了しておられた。著者はその衣鉢を継いでホメロス  
とギリシア悲劇を講じ、幾多の俊秀を育て、同時に旧約聖  
書の泰斗関根正雄先生に師事し、また新約聖書の講義を担  
われてきた。これらの舞台となった地中海世界に老若男女  
を伴って数十回、その魅力を体得させ、晩年の神田先生が  
主宰された有志の集会（ペディラヴィウム「洗足」会）  
の理事長として奉仕された。このような著者に数々の名著  
があることは当然であるが、本書はヘブライズムおよびヘ  
レニズム（聖書とキリスト教思潮、およびギリシア・ロー  
マ思潮）として西洋精神の源流であるとともに、人間と人  
間を超えるものを示して今や人類の古典となった両思潮に

見知らぬ神の跡を辿って



見知らぬ神の跡を辿って

新約聖書とギリシア・ローマ世界

川島重成著



ついでに、広い視野からする問題の探究である。

前半（第一部）は新約講義で、福音書から、愛敵の教え、  
罪を赦された人間のあり方、マルタとマリアの物語再考、  
イエスに香油を塗った女とユダの話、の四篇と、パウロ書  
簡から「神なき者の義認・全被造物救済の希望」「パウロ  
の死生観・復活観」「パウロにおける和解と贖罪信仰」の  
三篇を含む。いずれも聖書の根幹に関わる重大なテーマで  
あり、古典学と聖書学双方の学識に裏付けられた著者なら  
ではの緻密かつ柔軟な解釈が私たちの目を開かせ、聖書の  
読み方に反省と改革を迫る。安直な二分対立的思考と神な  
き安手のヒューマニズムの訂正を迫る。最後の一篇はパウ  
ロを踏まえた関根先生の「無信仰の信仰」への著者の応答  
であり、それ自身著者の信仰を語っている。

後半（第二部）はまさに著者の独壇場、その面目躍如で

ある。最初の論考「ギリシア思想と福音」で著者は、キリスト教とギリシア思想との出会いをまず通時的・歴史的に、ついでギリシア思想の本質を共時的・歴史超越的に取り上げ、最後にキリスト教以前のギリシア思想のおのずからなる進展がいかに福音の受容を準備していたか、いわゆる *praeparatio evangelica* の可能性を提起し、それに続く論考「ローマ世界と初期キリスト教」で、その原初的展開を辿る。いずれも熟読すべき名論である。

第三論考「ウェルギリウス『牧歌』第四歌における黄金時代——イザヤ書のメシア預言との類似性をめぐって」は上記の関心よりする緻密な研究であり、そこには聖書解釈学固有とされる予型論が文化横断的に用いられる。第四論考は著者が若き日から親しまれた森有正の思想展開の中でギリシアの果たした役割を論じ、体験と経験による信仰が確認される。

第五論考は前述した地中海世界の旅の中で「見知らぬ

神」がいかに模索されたかの跡を探りつつ、ギリシア人が「見知らぬ神（力）」と呼んだダイモンに及び、パウロのアレオパゴスの説教（使一七16）につなげている。「人間を超えるもの」への関心は学者だけのものではなかった。読者はここで著者が本書の標題を「見知らぬ神の跡を辿って」とつけた意味を知らされる。この思いで読めば最後の短章五題が珠玉の文章であることに気づく。

以上は雑駁な紹介と感想であるが、本書の諸文章が五十年に亘ることを思えば、本稿の始めに記した著者の歩みと研究・教育の歩みが、人間とそれを超えるものとの出会いと対話を中心にしていたことがわかる。著者の信も知もこの中で生かされたのであり、このような信と知こそ私たちが学ぶべきものではないか。このことを豊かに盛る本書の熟読と著者のご加餐を切に願ってやまない。

（かわだ・しげる 哲学徒）

（四六判・三四四頁・定価三三〇〇円・新教出版社）

既刊案内 (2025年10月～2025年11月)

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価(税込)	版元	発行日
ポーラ・グッター著 中原 康 貴 訳	意味は待つことにある ——アドベントのころ	四六	168	1,870	ヨ ベ ル	10/2
中 仁 編	上智大学聖書講座 信 仰 と 行 為	四六	176	2,200	ヨ ベ ル	10/7
芹 野 与 幸	ヴォーリスの足跡に魅せられて ——かおりの宝庫を訪ねる	四六	308	1,980	ヨ ベ ル	10/16
小高夏期自由大学事務局 編 著	苦難の日々を心に刻み、再生 へ 向 か っ て 歩 む ——明日は必ず来る 原発被災地 小高	新書	336	1,650	ヨ ベ ル	10/25
脇 坂 美 奈 子	み 言 葉 と 花 々 と ——聖書の言葉と花の写真集	175 × 185mm	144	1,100	ヨ ベ ル	10/31
北 博	VTJ 旧約聖書注解 エゼキエル書 1～24章	A5	218	4,400	日本キリスト教 団 出 版 局	10/6
古 橋 昌 尚	遠藤周作と文化的受肉 (インカルチュレーション) ——文学に神学を探る	A5	714	5,940	日本キリスト教 団 出 版 局	10/21
小 泉 健	みんなの説教入門	A5	152	1,980	日本キリスト教 団 出 版 局	10/23
宮 本 久 雄	宮本久雄著作選集 1 聖 書 ——旅する神のダーバル(言即事)と共に	A5	288	4,620	日本キリスト教 団 出 版 局	10/24
石 田 学	聖 書 通 読 3 1 ——神の救いをたどる旅	四六	144	1,760	日本キリスト教 団 出 版 局	10/24
コディ・J・サンダース、 アンジェラ・ヤーバー著 真下 弥生 訳	宗教活動におけるマイクロア グ レ ッ シ ョ ン ——キリスト教会の日常に潜む暴力と向き合う	四六	288	2,970	新 教 出 版 社	10/16
M・ノート著 山 吉 智 久 訳	イスラエル十二部族の制度	四六	278	2,970	教 文 館	10/22
日本キリスト 改革派教会 訳	ウェストミンスター信仰規準 ——日本キリスト改革派教会公認訳	四六	266	2,420	教 文 館	10/22
木 下 裕 也	〈植村正久〉を読む	四六	224	3,080	一 麦 出 版 社	10/24
水 垣 渉、 袴 田 康 裕 著	ウェストミンスター小教理問 答 講 解 全 面 改 訂 版	A5	194	2,860	一 麦 出 版 社	10/29
公 文 和 子	ケニアの障がいのある子どもた ちが奏でるすてきないのちの話 ——講演・奨励・エッセイ	A5	140	1,100	一 麦 出 版 社	11/1
アイリーン・クレイゲル	日々の黙想 今ここに気付く ——150の祈りと瞑想	A5変	360	2,640	日本聖書協会	11/7
クリスティアーネ・ テ ィ ー ツ 著 橋 本 祐 樹 訳	ディートリヒ・ボンヘッフアー 抵抗に生きた神学者	四六	230	2,640	新 教 出 版 社	11/11
エーリヒ・バイロイター著 梅 田 與 四 男 訳	ツインツェンドルフ ——ドイツ敬虔主義の巨星	四六	320	2,750	新 教 出 版 社	11/11
クリス&ジェイミー・ ベ イ リ ー 著 田 尻 潤 子 訳	どうすれば赦せる ようになるのか ——52週の旅路	四六	272	1,980	ヨ ベ ル	11/11
本 多 峰 子	イエスの語るたとえ ——今、あなたはどうか生きるか	新書	196	1,540	ヨ ベ ル	11/11

編・著・訳者	書名	判型	頁	定価(税込)	版元	発行日
ポーラ・グッター著 中原康貴訳	私を遣わしてください ——レントのこころ	四六	200	1,870	ヨベ	ル 11/18
金子晴勇	キリスト教思想史の例話集III ——「共生」の神秘	新書	264	1,540	ヨベ	ル 11/22
嶺重淑	増補改訂 キリスト教入門 ——歴史・人物・文学	A5	112	1,540	日本キリスト教 団出版局	11/14
久世そらち編	こどもに語ろう 聖書のおはなし160	B5	96	2,200	日本キリスト教 団出版局	11/25
近藤勝彦	活けるキリストの現実 ——キリスト教神学講演・論文集	A5	228	3,300	教文館	11/19
柳田敏洋	私とは何者か ——キリスト教の視点から	四六	156	1,430	教文館	11/25
越川弘英	冬のキリスト ——同志社大学チャペル・ア ワー・メッセージII	四六	330	2,750	キリスト新聞社	11/28



書店名	郵便番号	住所	電話	ファックス	URL	メール	郵便振替
善隣館書店	020-0025	盛岡市大沢川原3-2-37	019-654-1216	共用			02350-0-874
エッセイの木	980-0012	仙台市青葉区錦町1-13-6 エアオ1F	022-223-2736	022-302-6678	https://essainoki.jp/	shop@essainoki.jp	02230-0-31152
恵泉書房	260-0021	千葉市中央区新館3-2 千葉カリアセンタービル	043-238-1224	043-247-3072	http://www.keisen.christian.jp	keisen@vestia.ocn.ne.jp	00120-9-43619
教文館	104-0061	東京都中央区銀座4-5-1	03-3561-8448	03-3563-1288	http://www.kyobunkwan.co.jp	xbooks@kyobunkwan.co.jp	00120-2-11357
待星堂	167-0053	東京都杉並区西荻南3-16-1	03-3333-5778	共用	http://taishindo-books.jimbo.com/	taishindo@jcom.home.ne.jp	00110-8-95827
バイブルハウス東京	169-0051	新都区早稲田3-18(A00ビル2F 通称専門)	03-3203-4137	03-3203-4186	http://biblehouse.jp	biblehouse@bible.or.jp	00160-2-18410
東京キリスト教書店	112-0014	文京区目黒1-44-4 塚原ビル101号 新内(外販専門)	03-3260-5663	03-3260-5637		tokyo@nikkiban.co.jp	00130-3-60976
横浜キリスト教書店	231-0063	横浜市中区花咲町3-96	045-241-3820	045-241-5881	http://www.tuighte.net/~yokohama-us/index.html	sksch@mvva.biglobe.ne.jp	00250-4-2512
清光書店	951-8114	新潟市営所通一番町313	025-229-0656	共用			00560-8-51419
静岡聖文舎	420-0866	静岡市葵区西草深町20-26	054-260-6644	054-260-5612	http://www.s-seibun.co.jp/	info@s-seibun.co.jp	00810-8-26558
名古屋聖文舎	466-0045	名古屋市中区大須町16 日教キリスト教団 聖文舎内	052-680-8090	052-680-8091	http://nagoya-seibunsha.la.cococan.jp/	nagoya-seibunsha@nifty.com	00810-5-14073
バイブルハウス京都	606-0007	京都市北区新町22 日本基督教団 聖文舎内(外販専門)	090-5138-7020	075-320-1844		kyoto-ibs@bible.or.jp	01010-2-594
バイブルハウス堺	591-8023	堺市北区中百舌島町2-87 チャペルこつり2F	072-255-4970	075-255-4971		sakai-ibs@bible.or.jp	00160-2-18410
大阪キリスト教書店	552-0003	大阪市港区灘2-2-18 港ルネール教会1F	06-6377-6026	06-6377-6027	http://osekacbs.web.fc2.com/	ochrbook@river.ocn.ne.jp	00990-3-43009
堺キリスト教書店(聖燈社)	591-8044	大阪府堺市北区中長尾町2丁1-18	072-254-2233	共用		sakaixx@outlook.jp	00970-0-172228
神戸キリスト教書店	650-0025	神戸市中央区船生町4-5-2 神戸聖諭Aビル401	078-331-7569	078-945-9388		kobex@nikkiban.co.jp	00170-2-421390
広聖聖文舎	730-0841	広島市中区舟入町12-7	082-208-0022	082-208-0177		hseibun0951@yahoo.co.jp	01360-4-1958
リバーサイドブックス	779-1105	徳島県阿南市羽ノ浦町古庄大道/西13	090-8694-4986	050-3142-3017		ykwbft3@gmail.com	16220-17974891
松山キリスト教書店	790-0804	松山市中一万町1-23	089-921-5519	089-921-5413	http://www.geocities.jp/matsuyama_1007/mbs.html	sksch@dokidoki.ne.jp	01650-1-2120
新生館	810-0073	福岡市中央区舞鶴2-7-7	092-712-6123	092-781-5484	http://www.sinseikan.jp/	info@sinseikan.jp	01750-5-10932
キリスト教書店ハレルヤ	862-0971	熊本市中中央区大江4-20-23	096-372-3503	共用		k-haleruya@bible.or.jp	00160-2-18410
沖縄キリスト教書店	904-2143	沖縄県沖縄市知花4丁目12-33	098-927-0220	098-938-1102	https://www.okinawacbs.net	info@okinawacbs.net	01790-4-152916

※一般書店関係の方は 日キ販販売部 TEL 03-3260-5670 にご連絡ください。

# 福音と世界

2026年2月号

## 特集Ⅱ裁き

人による人への裁きから離れて

寄稿者Ⅱ有住航、安田真由子、河野真太郎、堀越耀介、長島皓平、彫真悟

◆寄稿 ただそこにいる（西平直） ◆連載 人物・日本キリスト教史（戒能信生）／ぼやき牧師のさすらい説教録（富田正樹）／異端者の世界航海（福嶋揚） 証言としての旧約聖書（田島卓）／新約釈義 ルカ福音書（山崎ランサム和彦、他）

A5判・定価660円・〒70円

定期購読についてはお気軽にご相談下さい。

新教出版社 TEL: 03-3260-6148

Email: sales@shinkyo-pb.com

## 編集室から

▼編集者の営みは創造である。無から有を生じさせることであり、生きものの〴〵（ブックス）を造ることである。現在の編集者ならパソコンに向かいながらの作業が主な内容となる。締め切りや本の刊行予定に向かつて日夜努力を重ねていく。孤独な作業の連続ともなるので、息抜きが欲しくなる。そんな時携帯で（夜8時以降に）よく連絡をとっていたのが、11月に逝去したリトン社主大石昌孝さん。昔からなんてかっこいい人なんだろう！と思っていました。▼二人で飲んだり、社長会と称して業界の社長らと銀座で食べて、呑んで、と楽しく語り合ったことはいい思い出です。新年会や総会には前もって「今度出ますか？」等と聞いて自分の方向を決めていました。ポ

## 予告

### 本のひろば

2026年3月号

## 本・批評と紹介

（書評）越川弘英著『冬のキリスト』、エーリヒ・バイロイター著『ツインツェンドルフ』、滝沢克己著『中学生の孫への手紙』、クリス&ジェイミー・ペイリー著『どうすれば赦せるようになるのか』、金子晴勇著『キリスト教思想史の例話集Ⅲ「共生」の神祕』、前川裕著『教会暦によるキリスト教入門』 他

クにとつては兄貴のような存在。でも75歳と同じ年齢！▼業界のこと、経営のこと、編集のこと、その専門分野であるギリシア語やヘブライ語編集など多くを教えていただいた。▼大学生時代から山本書店でアルバイトなどをしていた。▼大学生時代から山本書店でアルバイトなどをしていたので、専門性のある本作りには適任者として育てていかれた。その人がいない！ボクはどうしたらいいのか、と絶えず問いかけている。愛煙用のP缶かシンセイをくもらせながらにこやかに微笑み、「大丈夫」と語りかけてくれているように思う。▼刊行の予定、企画等思いをめぐらせながら彼からいただいたヤマギワ製のデスクライトのスイッチを入れて、「見守ってな」と。座右には同じく彼からの新約ギリシャ語辞典と逆引きを、古くなったが新聖書大辞典も常に傍らに置く。大石さんの手を借りて日々をこなしています。近いうちにお伺いします。（安田）

# 道を歩む

十字架と復活に向かう非暴力のイエスに従って

ジョン・デア著／志村真訳 ローマ帝国が十字架でイエスを殺し、現代の帝国がドローンで市民を殺す……。だがイエスは、十字架の政治学に復活の政治学で抗し、新しい命をもたらした。レント（受難節）の時を過ぎたための黙想の書。

1月23日

四六判・定価2200円

# わたしは神の恵みを無にはしない

ガラテヤ書の私訳と解釈

吉平敏行著 パウロ研究の新潮流と批判的に対話しつつ、丁寧な釈義を通して、信仰による義を再認識したユダヤ人、フアリサイ派パウロの福音理解を説明する。四六判・定価1760円

# 新しいパウロ

パウロの何が新しくあったのか？

12月22日



N・T・ライト著／前川裕訳

パウロは、ユダヤ教の唯一神信仰、選民思想、終末論をどう再定義したのか。パウロの福音理解を新鮮な目で読み直し、ローマ帝国という政治的背景をも視野に入れながら、彼が宣教した壮大なストーリーを蘇らせる。四六判・定価2970円

# デイートリヒ・ボンヘッファー

没後80年記念、最新の評伝



クリスティアーン・ティーツ著／橋本祐樹訳

反ナチ抵抗運動に殉じた生涯と思想を立体的かつ簡潔に描き出した評伝。近年の受容史も詳説し、ボンヘッファー入門としても最適。2024年の第3版が底本。四六判・定価2640円

# 神学と社会学理論

世俗的理性を超えて

ジョン・ミルバンク著／原田健一朗訳

「ポスト・リベラル神学を主張する」「ラディカル・オーソドキシ」の出発点。アングロカトリックの伝統に連なる断固たるキリスト教社会主義者の面目躍如たるものがあり、また現代思想との対論は極めて刺激的。A5判・定価9350円

## 宗教活動におけるマイクロアグレッション

大反響

キリスト教会の日常に潜む暴力と向き合う 四六判・定価2970円

サンダース&ヤーバー著／真下弥生訳 人種や性差などへの偏見の

無反省な再演から意識的な嫌がらせまで、親密圏で生じる他者の属性への攻撃は教会も決して無縁でない。その構造を探り、対策を考える。



オルガン曲集No.41  
**讃美歌21による  
 新しい前奏曲集 I**  
 礼拝・詩編と頌歌・朝夕の歌



飯 靖子  
 玉理照子 編

2026年1月20日刊行予定

従来の曲集よりもポピュラーで奏楽曲の需要の高い賛美歌を中心に選曲。第1巻は礼拝・詩編と頌歌・朝夕の歌の賛美歌前奏曲から全36のオルガン編曲を取録。  
 ◆A4判横 並製・72頁・定価3,080円

はじ  
**80歳から創める  
 キリスト教** 上林順一郎  
 よく生き よく老い よく学ぶ

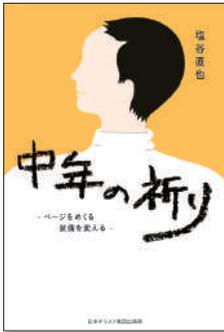


「生老病死を生き抜く」など、人生の知恵が詰まったキリスト教の入門書。80歳を超えた著者だから語れる、聖書による人生ガイド。  
 ◆四六判 並製・128頁・定価1,540円

2026年1月22日刊行予定

発売中 『70歳からのキリスト教 大澤秀夫 定価2,640円  
 —聖書でたどる人生の旅』

**中年の祈り**  
 ページをめくる 装備を変える  
 塩谷直也

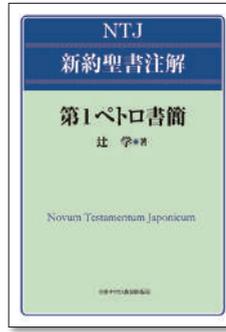


人生最大の危機である中年期を生き抜くための必読書。信仰の視点から中年期を捉えるエッセイと中年の課題に寄り添う祈りを収録。  
 ◆四六判 並製・144頁・定価1,980円

2026年1月23日刊行予定

電子書籍版を2026年2月に配信予定!

NTJ 新約聖書注解  
**第1ペトロ書簡**  
 辻学



原語で読むことの意義が明らかに、なるよう努めた詳細な注解から、現代に向けて第1ペトロ書簡が語りかけるポイントを考察する。  
 ◆A5判上製・258頁・定価4,840円

2026年1月23日刊行予定

電子書籍版を2026年2月に配信予定!

本のひろば.com

